

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
6	米山 享範（25）	<p>1. 災害時等に備え液体ミルクの災害備蓄品への導入について 今春から液体ミルクの販売が始まりました。液体ミルクは母乳に近い栄養が含まれ、常温で約半年から1年間は保存できるものです。</p> <p>粉ミルクと違って、お湯の確保が困難な災害発生時の避難所でも乳児に安心して飲ませることができることから、富士市において液体ミルクの備蓄を求めるものです。</p> <p>我が国では平成28年4月に発生した熊本地震の際に、フィンランドから寄せられた緊急支援物資の中に液体ミルクがあり、避難所での生活を余儀なくされた赤ちゃん連れの母親からは大変喜ばれたものであります。</p> <p>また、先ごろ大手コンビニエンスストアが乳児用液体ミルクの取り扱いをスタートさせました。こちらは働きながら懸命に子育てをする世帯の負担軽減やインバウンドの関心も高くあり、既にかなり需要も見込まれるとされています。</p> <p>さらに、スーパーマーケットやドラッグストアでも取り扱いが徐々にふえつつあると言われていています。そこで以下4点について伺います。</p> <p>(1) 富士市においては液体ミルクを災害時の備蓄品として購入しているのか。購入していないなら、今後購入していく考えはあるのか。</p> <p>(2) 子育て支援や働く母親たちに液体ミルクの有用性を認識してもらい、各家庭でも備蓄を促していくという考えからの施策を展開すべきと思うがいかがか。</p> <p>(3) 子育て世帯の母親、父親の負担軽減という観点からもその有用性をPRし、さらに子育て世帯を対象にした防災講座などで周知を図る考えはないか。</p> <p>(4) 役所が実施している赤ちゃん訪問や健診の際に、液体ミルクの正しい知識も伝えるべきと思うがいかがか。</p> <p>2. 強固な自主防災組織の要となる防災リーダーの育成について</p> <p>9月1日には令和元年度富士市総合防災訓練が実施されました。これは市内の各町内会自主防災会が参加し、突然、大規模地震が発生したとの想定で、命と暮らしを守る自主防災会が主体で展開され、この日は日曜日でもあり、訓練には多くの小・中・高生の姿も見られ、大変うれしく、かつ頼もしく感じたものであります。</p> <p>訓練想定は、駿河湾から日向灘にかけて、南海トラフ沿いを震源にマグニチュード9.0の巨大地震が発生、富士市内は地震が発生直後に縦揺れが起こり、続いて大きく激しい横揺れが4分間継続、震度6強を記録、沿岸部では地震発生後15分で津波の最大波が到達、浸水被害が発生した、というものであります。</p> <p>これからも、さらに自主防災会の使命は大きくなっていくと思います。そこで地域の防災活動や災害時に、住民らの</p>	市長 及び 担当部長

順位	氏名（議席）	発 言 の 要 旨	答 弁 者
6	米山 享範（25）	<p>リーダー役としての自主防災会長の使命と責務は大きいものがあります。各地区には防災指導員が配置されていますが、高齢者が担っているのが多いというのが現状であります。そこで、以下4点について伺います。</p> <p>(1) 自主防災組織の強化と人材の育成という観点から民間資格「防災士」の養成を進め、そこで市が費用の助成をし、地域防災リーダー役の育成をすべきと思うがいかがか。</p> <p>(2) 市職員で「静岡県ふじのくに防災士」の有資格者は何人いるか、防災訓練等でどのような活動を展開しているのか。また、防災指導員の中に防災士有資格者は何人いるのか。</p> <p>(3) 現状の防災指導員で十分か、増員していく考えはあるのか。</p> <p>(4) 平成26年4月に全世帯配布された「富士市防災マップ」の改正版の発刊計画はあるのか。</p>	市長 及び 担当部長